



特別賞受賞講演

学校教育への参画を通じた
地域のサステナビリティのための
リスクコミュニケーション活動の推進

(株)東芝 研究開発センター
施設・環境保全部
水上 浩

例えば、循環型社会形成推進基本計画

「よいものを大事に使う「スロー」なライフスタイル」
を提唱

しかし、20世紀型のライフスタイル世代は「改善」
個人の価値観の变革は??

→ 子どもたちへの働きかけ

環境先進国(独、北欧諸国など)

1980年以降、学校カリキュラムに環境教育
NGO, NPOが寄与

→ 日本:企業の教育への参画が必須

第2回サイトレポート(2000年度)



1回目が分かり難かったので…
究極の分かりやすさを目指して
対象を小学5,6年生に
・押しかけ出前授業



- 大人にもこれで充分
- 訪問授業開始

配布総数: 10,935件

この子たちにうそはつけない！



大分放送ニュースより(2004.6.16朝)

地域の一員として、企業でどんな環境活動をしているかを詳しく説明

身近な材料を用いた
やクイズ

水を打ったように聞き
入り、真剣そのもの

日常的な苦勞話、環境上の事故・
不具合も紹介

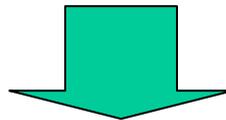
出前授業：2000年～計83件

コミュニケーションツールとしての報告書の追求

対話型コミュニケーションの一例としての報告書とは？

企画から編集の全プロセスを地域の読者と共同で

→ 「地域の読者」+「子ども」
= 中学生との共同編纂



コミュニケーションの記録そのものを報告書に
サイト報告書への第3者意見反映の一形態
分かりやすい編集の追及



訪問授業



12名の有志!



総合的な学習の
授業の一環として

第5回サイトレポート(2003年度)



環境サステナビリティ報告書2003

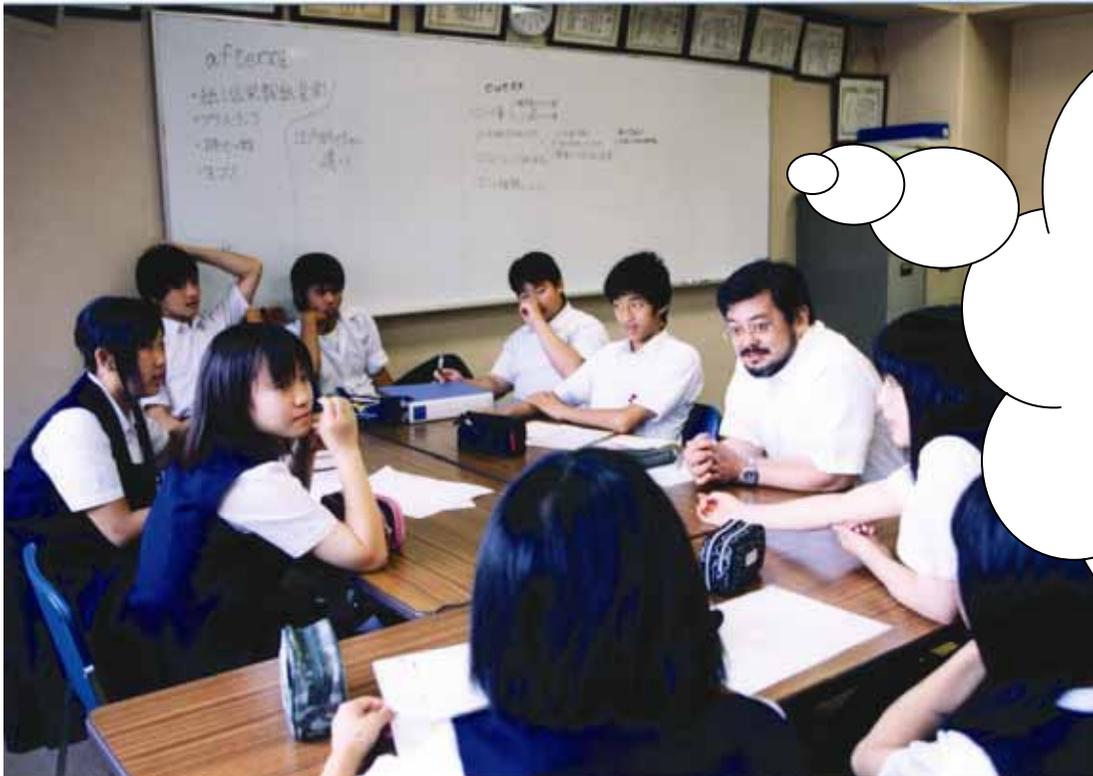
こちら中学校編集局

企業はどう環境と向き合っているのだろう?



対話型コミュニケーションの
一つのあり方を試行

配布総数: 5,896件



東芝さんはもういいです。

今度は**自分たちの学校の
環境報告書**を作りたいです。
そしてそれを他の学校にも
広めたいです！

来年はどうする？

■ ■ ■ 涙



「環境」は常識です。
環境技術などという言葉がある方がおかしいのです。

これは人類の未熟さと稚拙さを象徴するものです。
電車に優先席があるように。

おしまい

ご清聴ありがとうございました

